

船の事故	発生日	発生日	船舶種類	事故形態
	10月24日(月)	山口県	プレジャーボート	運航不能
	10月27日(木)	山口県	その他	単独衝突
	10月27日(木)	福岡県	漁船	衝突
	10月27日(木)	福岡県	プレジャーボート	衝突
	10月27日(木)	佐賀県	プレジャーボート	浸水
	10月28日(金)	長崎県	漁船	乗揚
	10月29日(土)	大分県	遊漁船	運航不能
	10月30日(日)	福岡県	プレジャーボート	運航不能
	10月30日(日)	福岡県	プレジャーボート	運航不能

人の事故	発生日	発生日	事故区分	事故内容
	10月26日(水)	福岡県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	病気

運航不能(機関故障)事故発生 冷却水系統 要確認！！

【問合せ先】
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 古場
安全対策調整官 川部
TEL：093-321-2931（内線2640）

【事故事例】

令和4年10月30日07:00頃、船長は、事故船舶の発航前点検を実施し、主機関潤滑油やバッテリー電圧の確認はしたものの、冷却清水量については、機関室が狭く、確認をしなかった。同日07:40頃、船長他2名乗船のうえ漁場向け航行中、主機関冷却水温度上昇の警報が吹鳴したことから、微速で帰港することとしたが、海象が悪化し身の危険を感じたため海上保安庁(118番)に救助要請し、巡視艇に曳航救助されたもの。

後日、業者にて原因調査を行ったところ、主機関と冷却清水タンクを接続するゴムホースが経年劣化により外れており、タンク内の冷却清水が全量流出し、機関室内に滞留した状態であった。

また、冷却海水ポンプ用のインペラの経年劣化により、冷却清水の冷却不足も同時に誘発している状態であった。



◆冷却水系統に関する注意事項

・冷却水量の点検確認

冷却清水量は、出港毎に必ず点検するようにし、不足している場合は、補充しましょう。(エンジン停止直後は、冷却清水が高温のため、キャップを開けるのは危険です。キャップを開ける場合は、エンジンが十分に冷えてから開けましょう。)

また、冷却清水量点検に併せて、船底のビルジ量についても確認しましょう。不自然にビルジ量が増えている場合、漏水などが疑われますので、異状の有無を点検し、整備しましょう。

※ビルジとは、船底に溜まる汚水、通称あかのことです。



・冷却水系統各箇所の点検

機関を起動時は、船外に排出される海水の排出量を確認しましょう。海水排出量が少ない場合は、エンジンを停止し、以下のことを点検・整備しましょう。

・海水取り入れ口の点検

ゴミやフジツボ等が詰まると、給水に支障をきたします。海面浮遊物等に注意し、上架時に清掃するようにしましょう。



・海水こし器の点検

ゴミの吸い込みを防ぐ役割をしているため、長期間放置しているとゴミが溜まり、目詰まりを起こします。適宜、海水こし器を掃除するようにしましょう。



・インペラの点検

経年劣化やごみ等の吸い込みにより海水ポンプのインペラは破損します。確認し、羽が一枚でも欠けていたら交換しましょう。

(インペラは消耗品です。目視等での確認が難しい場合でも、一年に一回は交換するように心がけましょう。)



新品のインペラ 劣化したインペラ



必ず取扱説明書をよく読んでから作業してください！
少しでも整備に不安を感じたら必ず整備業者に相談・依頼しましょう！

